愛知東邦大学 シラバス

開講年度(Year)	2025年度	開講期(Semester)	前期
授業科目名(Course name)	スポーツマネジメント		
担当者(Instructors)	杉谷 正次	配当年次(Dividend year)	2
単位数(Credits)	2	必修・選択(Required / selection)	選択

■授業の目的と概要(Course purpose/outline)

スポーツ経営学の基礎理論を理解するとともに、スポーツ組織や地域スポーツクラブの経営のあり方について検討することを目的とします。そこで本講義では、スポーツ事象を経営学の視点から捉え、その基礎理論を理解するとともに、スポーツ環境を取り巻く様々なスポーツビジネスを事例としてとりあげ、スポーツマネジメントの実践的なあり方について考えます。

■授業形態・授業の方法(Class form)

授業形態(Class form)	講義
授業の方法(Class method)	基本的に授業は、講義形式で行います。 但し、授業の内容に応じてグループワークを取り入れることもあります。

■各回のテーマとその内容(Each theme and its contents)

回数(Num)	テーマ(Theme)	内容(Contents)	メディア区分(Media)
第1回	スポーツ産業の発展と動向	スポーツ産業と他産業の違いを明らかにした上で、スポーツ産業におけるリスク・シェアとステークホルダーの重要性について解説する。	□
第2回	スポーツマネジメントの基礎理論	スポーツマネジメントとは何か、なぜスポーツにマネジメントが必要なのか、スポーツマネジメントの重要性について概説する。特にスポーツクラブをマネジメントする上での基礎理論（人と組織、ロジカルシンキング、マーケティング、経営戦略等）を学ぶ。	□
第3回	スポーツ消費者と消費行動	スポーツ用品の市場と流通活動の観点から、スポーツ消費者の消費行動を分析する。	□
第4回	スポーツマーケティングに関する考え方と構造	スポーツマーケティングを理解するため、スポーツという市場を構成する「商品」「売り手」「買い手」という3つの基本要素から考察する。	□
第5回	マーケティングプログラムの展開	CS（顧客満足）とは何か、CSの3つの段階をあげ、スポーツビジネスにおけるCSの重要性とホスピタリティについて解説する。	□
第6回	マーケティング倫理と法	スポーツマーケティング倫理とスポーツに関する法務について、具体的な事例をあげて解説する。	□
第7回	スポーツ組織の運営(1)プロスポーツの経営	プロスポーツビジネスとしての日本プロ野球（NPB）とアメリカメジャーリーグ（MLB）を取りあげ、組織・権限、経営戦略を比較しながら、それぞれの組織が抱える問題点と課題について考える。	□
第8回	スポーツ組織の運営(2)民間スポーツクラブの経営	フィットネス産業の歴史と現状について解説し、フィットネスクラブが展開している経営戦略について紹介する。またわが国におけるフィットネス産業の動向についても触れる。	□
第9回	スポーツ組織の運営(3)競技団体の経営	代表的なスポーツ競技団体をあげ、その競技団体の経営について紹介する。特にIOCやFIFAなどの競技団体の財務分析を中心に取り上げる。	□
第10回	スポーツ組織の運営(4)地域スポーツ経営と総合型地域スポーツクラブ	代表的なスポーツ競技団体をあげ、その競技団体の経営について紹介する。特にIOCやFIFAなどの競技団体の財務分析を中心に取り上げる。	□
第11回	スポーツ組織の運営(5)地域におけるスポーツ振興と行政の関わり	スポーツ振興方策と行政の関わりについて、全体の枠組みと根拠法令の概要を理解し、地域におけるスポーツ振興方策の現状と課題について考える。	□
第12回	スポーツ組織の運営(6)広域スポーツセンターの機能と役割	広域スポーツセンターとは何か、広域センターの必要性と役割について触れ、スポーツセンターにおける施設管理と運営のあり方について解説する。	□

第13回	スポーツ事業の計画・運営・評価(1)総合型地域スポーツクラブ	総合型地域スポーツクラブのスポーツ事業の計画・運営・評価について解説する。	□
第14回	スポーツ事業の計画・運営・評価(2)スポーツイベント	スポーツイベント事業の計画・運営・評価について、具体例をあげて解説する。	□
第15回	まとめ	スポーツマネジメントの授業を総括する。	□

■授業時間外学習（予習・復習）の内容(Preparation/review details)

事前学習（予習）として、次回講義テーマについてインターネット等で調べ学習をする（2時間程度）。 また事後学習（復習）として、 授業の終わりに提示した小レポートの課題を作成し、次回授業までに提出する（2時間程度）。

■課題とフィードバックの方法(Assignments/feedback)

提出された小レポート（課題）は、原則として採点・講評・解答例の提示などによりフィードバックし、全体で共有する機会を持ちます。

■授業の到達目標と評価基準(Course goals)

区分(Division)	DP区分(DP division)	内容(DP contents)
思考力・判断力・表現力	◆ 2021地域ビジネスDP2	経営を取り巻く環境の変化に関心を持ち、スポーツマネジメントが社会全体に与える影響について幅広く考察することができる。また、今後のスポーツマネジメントのあり方などについて、多様な人々と協働するなど、他者に自分の考えをわかりやすく説明できる。

■成績評価(Evaluation method)

筆記試験(Written exam)	実技試験(Practical exam)	レポート試験(Report exam)	授業内試験（in-class exam)	その他(Other)
			70%	30%

授業内試験等(具体的内容)(Specific contents)

毎回提出された小レポート（課題）を【授業内試験】の成績として評価（70点満点）し、授業参加・貢献度（授業への取り組みなど）を【その他】の成績として評価（30点満点）します。

■テキスト(Textbooks)

No.(No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	なし	
2		
3		
4		
5		

■参考図書(references books)

No.(No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	杉谷正次・石川幸生編著『現代スポーツマネジメント』三恵社	
2	山下秋二・原田宗彦編著『図解 スポーツマネジメント』大修館書店	
3	広瀬一郎著『スポーツ・マネジメント入門　24のキーワードで理解する』東洋経済新報社	
4	ヨッフェン・ヴォルフ著 石川幸生・杉谷正次・本田陽監訳 山内章裕訳『ドイツにおけるスポーツクラブのマーケティング』三恵社	
5		